

鳥取県

高P連

会報

第79号
平成26年10月1日

発行所 地内校会
番 町 21 会館学合
市 扇 町 会館学合
取 市 扇 町 会館学合
民 取 市 扇 町 会館学合
鳥 取 市 扇 町 会館学合
取 市 扇 町 会館学合
島 取 市 扇 町 会館学合
鳥 取 市 扇 町 会館学合
P 取 市 扇 町 会館学合
T 取 市 扇 町 会館学合
A 取 市 扇 町 会館学合
0857-27-0730

「思い、願う」

県高P連会長 水野治郎
(鳥取西高等学校)



ふと気が付けば季節はもう秋。縁あって母校のPTA会

長を拝命し、図らずも、県高P連会長をもお受けすることになって早や数か月。浅学非才の我が身を恥ながら、季節の移ろいを感じる余裕すらないまま、皆様のご支援のお蔭で今日まで大役を務めさせて頂いておられます。この場をお借りして心より御礼を申し上げます。

さて、去る平成26年7月11日(金)、第56回中国・四国地区高P連大会高知大会が、更に8月22日(金)、23日(土)の両日には第64回全国高P連大会福井大会が挙行

され、県連役員並びに各単P役員の皆様にも多数ご参加いただきました。内容についてのご報告は事務局にお任せし、私からは率直に感じたことをお伝えしたいと思います。

台風の直撃により開催すら危ぶまれた「高知大会」。大会実行委員会始め関係各位のご英断により、急遽一部予定を変更して行われました。遠来の参加者に対する心遣い、そして、その気持ちに込めるがごとく大勢の来場者。大人の友情を感じた瞬間でした。大会終了後の役員交流懇談会の場では、予定変更によって割愛となつた高校生によるアトラクションが披露されました。彼らの今日までの努力に対する主催者の配慮に心温まるとともに、教育の本質の一

端を垣間見た気がしました。「福井大会」では学力、体力ともに全国トップレベルの実績に裏付けられた「福井県民」の自信と誇り、そして何よりその笑顔に刺激を受けました。人口80万人強と我が鳥取県と大差ない規模の「福井県」。今回の1万人規模の大会運営経験を糧として、更なる飛躍をされることでしょうか。我々にとつても学ぶ点は多く、同時に、「鳥取県」の前途にも光明あり、と確信し帰路につきました。

ところで、皆様は「PTA」をどのように理解されておられるでしょうか？その起源は19世紀末にアメリカで起こった、母親たちによる教育環境の改善を求める運動にある、と言われています。日本では戦後、民主的な教育の普及を目指す上で、全国の小中高校へ設置が広がりました。保護者と教員が作る教育団体で「先生と保護者が対等な立場で参加する組織」と定義されています。と、一端の講釈を垂れながら、ふと思つたのです。「果たして現実はどうだろうか？」

方が過度になつていないのではないかと感じるのです。相互の信頼、理解に基づく協力、補完関係なくして「PTA」の素晴らしさは十分に機能しません。今一度、原点に立ち返る心のゆとりが求められているのではないのでしょうか。

県内各校の単位PTAでは、様々な取組が行われていることと思います。それぞれの事業そのものの成果もさることながら、親としての一所懸命な姿こそ、尊いも

近畿高総文祭鳥取初開催 生徒の活躍に期待

生徒の活躍に期待

来年の11月14日(土)〜22日(日)に、第35回近畿高等学校総合文化祭が鳥取県で開催されます。開催予定地は4市、大山町、伯耆町です。この文化祭は、近畿地方を中心とした2府8県の高校生による文化の祭典で、関係生徒や一般の観客をあわせる

と約1万5千人前後が毎年参加しています。

本県は、平成20年の近畿ブロック知事会加入を機に、同年の徳島大会から参加を始めました。10府県による持ち回りで、本県では初開催となります。

全国高等学校総合文化祭と同

のだと思います。「子は親の鏡」であり「子は親の背中を見て育つ」のです。子どもとの係わり方に日々反省を繰り返しながら、子どもと共に親としても、少しずつでも成長出来れば良いのでは、と思

います。保護者の皆様方に於かましましては、わが子の最良の理解者としての立場から、PTA活動への積極的なご協力を頂きますよう宜しくお願い致します。

じように総合開会行事が開催されるほか、計16部門で舞台発表、作品展示及び競技などが行われ、10府県の高校生が日頃の活動の成果を披露します。本県独自の「まんが」部門もあり、まんがや本県の魅力を広くアピールして大会に花を添えます。

府県を越えた生徒同士の交流を大切にするのもこの文化祭の特徴で、全県から募つた生徒実行委員や各部門の部員などが自分達自身で企画や運営を行い、他府県の高校生を温かく迎えます。生徒たちの活躍を是非御覧ください。(県教委高等学校課)

薬物乱用は一度でも犯罪です

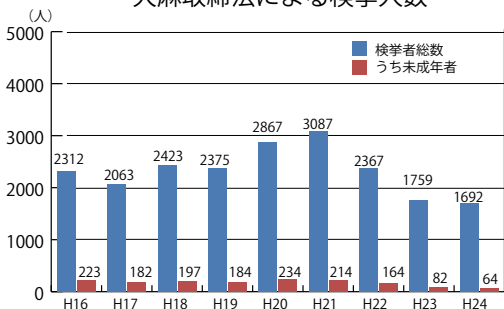
鳥取県教育委員会体育保健課

薬物乱用とは、薬物を不正な目的や方法で使用することを言います。医薬品を医療目的以外で使用したり、医療目的にない薬物を不正に使用したりすることなども含まれます。

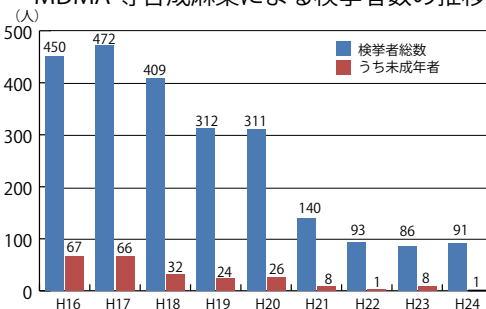
薬物乱用が及ぼす社会的影響

- 一 家庭問題
 - ①生活の乱れ
 - ②家庭内暴力、家庭の崩壊
- 二 学校での問題
 - ①欠席、学習不適応
 - ②校内暴力
 - ③他の生徒への薬物乱用の広がり
- 三 友人問題
 - ①けんかを起こしやすく、友人や知人から離れ、孤立
- 四 職業及び経済問題
 - ①怠業、失業などの職業生活の破綻
- 五 犯罪
 - ①薬物入手するための恐喝や窃盗などの事件
 - ②密売や乱用者による勧誘

大麻取締法による検挙人数



MDMA 等合成麻薬による検挙者数の推移



(H25. 文科省、薬物乱用対策推進会議調べ)

鳥取県教育委員会としての取り組み

国が策定している「第四次薬物乱用防止五か年戦略」の中で、「青少年、家庭及び地域社会に対する啓発強化と規範意識向上による薬物乱用未然防止の推進」が謳われており、薬物乱用防止教室についても、中学校・高等学校で年一回は開催するように努めることが記載されています。

近年では、危険ドラッグの青少年への乱用拡大が懸念されており、ますます予防・啓発が重要視されています。

本県でも、青少年の薬物に対する予防教育は非常に重要と考えており、教職員等を対象とした研修会を毎年開催し、先生方の理解と指導力の向上を図っています。

また、薬物乱用防止に関する学習は、小学校、中学校、高等学校において、児童生徒の発達段階に応じ、保健の学習を中心に行われており、その学習の発展として、中学校、高等学校においては、関係機関と連携して、薬物乱用防止教室を年一回は開

催するよう、あらゆる機会を捉えて働きかけています。



更に、学校における心や性の健康問題について協議を行う「心や性の健康問題対策協議会」の中でも、薬物乱用防止教育について話し合っています。

大切なことは、薬物に対して正しい知識を持つとともに、子どもたちの自尊心を高めていくことであると言われています。

鳥取県の子どもたちが、心豊かに、元気で生活していけるよう、ぜひ家庭や地域の協力をお願いしたいと考えています。

大人も子どもも、薬物に対して正しい知識をもつことがとても重要です。



(文科省が高校生に配布している教材)



(内容) ●喫煙、飲酒と健康 ●薬物乱用と健康など

PTA活動紹介

鳥取西高等学校

1 学校の概要

鳥取西高等学校は、今年で創立一四一年を経る長い歴史と実績をもつ全国有数の名門校として、多くの人材を育ててきた学校です。約五万三千人の卒業生には、政治・経済・学術、教育、芸術等の各界で重きをなし活躍する人材を多く輩出して、います。「文武併進」の校是の下、進学のみならず、部活動の充実振興も図られており、硬式野球部、新体操部をはじめとして、数多くの部活動が盛んに行われています。

極的な活動に取り組んでいます。平成二十六年度より委員会を再編成し、五つの委員会で新たな活動を展開しています。

《保健環境委員会》

生徒の健康安全、食育を課題として、例年研修会などを開催し、多くの参加を得て、充実した活動が行われています。また校内の環境整備に対し、点検および意見交換を行っています。

《生活指導委員会》

生徒のあいさつ運動、交通安全運動に保護者としても参加し、積極的に生徒と関わりを持ち、生徒たちが生き生きと、そして爽やかに学生生活を送ることができるよう活動に取り組んでいます。

《進路指導委員会》

生徒の進路実現達成のため、保護者に対して何回か研修会を

開催し、「親として何をすべきか」を支援しています。近年は受験生に対し「年越しそばをふるまう会」も行い、活動は盛んです。

《人権教育委員会》

人権問題に関する学習を深めるため、講演会並びに研修会、人権教育公開LHR開催を学校と共に推進しています。PTA会報に「人権教育」に関するページを設け、人権教育に対する意識向上を図っています。

《広報交流委員会》

PTA会報「西高だより」の編集発行（年三回）を行い、PTA活動の様子、学校行事など数多くの話題を提供しています。また、姉妹校である韓国・春川高等学校との交流にあたり支援活動も行っています。

（文責 会長 水野治郎）

米子西高等学校

米子西高等学校PTAは、今年度の活動テーマとして『継』つなぐ、つなげる、つながるを掲げ、保護者・先生・生徒そして地域との相互連携の強化を図るべく、活動を展開しております。

その上で、郷土に貢献する「知・徳・体・志」のバランスのとれ

た人材を育成するという本校の教育方針に合致する事業を行っております。

本校PTAでは、生徒の安全な学校生活の確保と保護者の方への有益な情報の提供を主な目的に、四つの専門部が中心となり、活発な事業活動を行っています。

《教養部》

二人人壁画の企画・立案及び作製と撤収（二人人壁画とは、生徒・保護者・教職員の全員がメッセージを色紙に書いてモザイク絵にするものです。）など。



二人人壁画完成

《研修部》

- ・進路情報セミナーの開催
- ・就職情報セミナーの開催
- ・保護者対象大学訪問（昨年度岡山大学他一校での開催）
- ・交通安全及びマナーアップ運動の実施（年三回、十日間）など。



交通安全マナーアップ運動

《広報部》

広報誌「米西だより」の発行年四回の発行で翠風祭（学校祭）の号外を含む。内容が保護者から好評であり、全国高P連大会でも、毎年展示されるなど外部からの評価も高い。

《人権教育部》

- ・人権教育講演会の開催（本年度は二回開催）
- ・人権教育部便り「みはるかせ」の発行（年三回）
- ・鳥取県ふうせんバレーボール大会へのボランティア参加
- ・他団体主催の各人権研究会、講演会への参加 など。

本校PTAは、今後より一層の活動へのご理解を頂きますよう、会員一同頑張つて参りたいと考えておりますので、何卒宜しくお願い致します。

（文責 会長 武海 章）

2 各専門委員会の活動内容

年二回、常任委員会が開催されると共に各専門委員会ごと積



平成26年8月22日(金)、第64回全国高P連大会福井大会において表彰式が行われました。

鳥取県から受賞された個人・団体は次のとおりです。長年PTA活動にご尽力され素晴らしい成果をあげておられることが、多くの方々より高く評価された結果と存じます。受賞まことにおめでとうございます。

役員等表彰

池内勝彦氏



(前県高P連会長)

平成21年度から五年間にわたり県連会長を務めた。その間、平成21年度の創立60周年記念大会、中国・四国地区高P連シンポジウム、平成22年度の中国・四国地区高P連鳥取大会の開催にあたっては、県連会長として尽力し成功に導いた。また中国・四国地区高P連、全国高P連の役員としても活躍し、PTA活動の発展に寄与した。

個人表彰

前田昇氏

(前米子東高会長)

県高P連副会長2年
地区高P連会長2年
単P会長2年



2年間にわたり地区高P連・単P会長・県高P連副会長として、卓越したリーダーシップを発揮し、PTA活動推進に多大な貢献をした。単Pの積極的な活動はもとより、地域との連携に努め、PTA活動の発展に寄与した。

嶋村博一氏

(元鳥取湖陵高会長)

県高P連中・四国高P連代表役員2年
単P会長2年



「顔の見えるPTA」をモットーとするPTA活動の確立に向け、自ら進んで学校行事に参加するなど、そのリーダーシップをいかんなく発揮した。また、会長として創立10周年記念事業の成功に尽力した。

団体表彰

米子西高等学校PTA

20年目を迎えた生徒・保護者二人のメッセージを載せた大壁画「千人壁画」制作をはじめ、人権教育部だよりや、3年連続全国大会展示広報紙の県代表に選ばれたPTA広報誌の発行等に積極的に取り組み、PTA活動の活性化を図った。

倉吉西高等学校PTA

学校におけるPTAの役割を認識し、生徒が生き生きと学校生活を送ることができることを活動方針とし、学校祭におけるバザーや諸行事への協力など、会員相互の連携を深める中で、教育活動の活性化に寄与している。

平成二十六年 県高P連役員



会長 水野 治郎 (鳥取西高等学校)



副会長 大津 理恵 (倉吉東高等学校)

平成26年度 県立高校PTA会長・校長名簿

所属校	会長名	校長名	所属校	会長名	校長名
鳥取東	宇田川和人	藤原辰広	倉吉総合産業	筏津豊秋	竹ノ内誠一
鳥取西	水野治郎	河田透	鳥取中央育英	高田直樹	横山尚登
鳥取商業	飯野学	野崎淳介	米子東	南雅樹	山根孝正
鳥取工業	田中寿彦	小宮山信行	米子西	武海章	依藤典篤
鳥取湖陵	上山弘子	谷輝久	米子	芦立喜男	末次壽也
青谷	安岡敬恒	長谷川祐司	米子南	伊達寿彦	澤田裕二
岩美	菅原理絵	尾室真郷	米子工業	白川将夫	友松文嗣
八頭	奥田のぶよ	小倉健一	境	阿部宏之	池田洋二
智頭農林	石橋則利	濱崎公嗣	境港総合技術	渡祐一	安藤順一
倉吉東	大津理恵	河田雅志	日野	高橋秀紀	田淵直記
倉吉西	加藤一巳	松本清治	鳥取盲	新田洋介	竹信純一
倉吉農業	大江博文	田中正士	鳥取聾	林明美	藤田則恵



副会長 南 雅樹 (米子東高等学校)

参与

松本 清治(倉吉西高)
長谷川祐司(青谷高)
竹ノ内誠一
(倉吉総合産業高)
澤田裕二(米子南高)
河田透(鳥取西高)

監査

河田雅志(倉吉東高)
山根孝正(米子東高)
大江博文(倉吉農業高)
武海章(米子西高)
中・四国高P連代表役員
水野治郎(鳥取西高)
宇田川和人(鳥取東高)
阿部宏之(境高)
事務局長 寺谷節男

平成25年度 会務報告

- 25. 4. 8 県高P連監査 鳥取 県民ふれあい会館
- 16 県高P連第1回役員会 倉吉 ホテルセントパレス倉吉
- 6. 8 県高P連定期総会 湯梨浜町 国民宿舎 水明荘
- 7.12 第55回中・四国地区高P連大会島根大会
松江市 島根県民会館
- 19 県高P連第2回役員会 倉吉 ホテルセントパレス倉吉
- 8. 7～8 第38回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会
米子 米子コンベンションセンター他
※鳥取西高校が第1分科会第1分散会で報告
- 22 第63回全国高P連大会山口大会
山口 山口県スポーツ文化センター他
- 10. 1 会報77号発行
8～11 日韓家庭・地域教育交流事業 韓国江原道他
- 16 県高P連第3回役員会 倉吉 ホテルセントパレス倉吉
- 26 中部地区高等学校PTA指導者研修会
倉吉 新日本海新聞社中部本社
- 11.30 鳥取県高等学校PTA指導者研究大会
倉吉 鳥取県立倉吉未来中心/倉吉交流プラザ
- 26. 1.16 県高P連第4回役員会 倉吉 倉吉市上井公民館
- 26 西部地区高等学校PTA研修会 米子 ホテルサンルート米子
- 2.24 会報78号発行

平成26年度 事業計画

- 1 各高等学校PTAの連絡提携
 - (1) 総会
 - (2) 役員会
 - (3) 通知・資料提供による情報の交流、協議決定事項の推進
 - (4) 会報の発行、各校PTA会報の交換斡旋
 - (5) その他
- 2 県・地区PTA活動の充実・展開
 - (1) 研修活動の推進(県・地区高校PTA連合会研修会、県PTA研究大会、県外への調査、研修)
 - (2) 青少年非行防止運動のための協力・実践
 - (3) 関係団体・組織との提携活動
 - (4) その他
- 3 県青少年健全育成・生涯学習諸活動への積極的参加
 - (1) 青少年育成鳥取県民会議
 - (2) 人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会
 - (3) 社会を明るくする運動
 - (4) 生涯学習関係諸集会、大会
 - (5) 全国高P連賠償責任補償制度への加入推進
 - (6) その他
- 4 県外PTA諸事業の振興・参加
 - (1) 中・四国地区高P連、全国高P連との提携およびその事業の推進
 - (2) 中・四国地区高P連、全国高P連大会における研究発表および参加
 - (3) 他県高P連、他地区高P連との情報交換等協力関係の維持推進
- 5 県内関係諸団体・組織との連携交流
 - (1) 県高等学校長協会
 - (2) 県教育委員会
 - (3) 県PTA協議会
 - (4) その他

平成25年度 収支決算書

収入の部 (単位:円)			
科目	予算額(A)	収入済額(B)	増減(B)-(A)
負担金	4,841,000	4,839,400	△1,600
補助金	1,184,906	1,184,906	0
前年度繰越金	0	0	0
繰入金	2,000,000	2,005,512	5,512
雑収入	94	466	372
合計	8,026,000	8,030,284	4,284
支出の部 (単位:円)			
科目	予算額(A)	支出済額(B)	増減(A)-(B)
会議費	225,000	224,757	243
事業費	2,090,000	2,052,377	37,623
研修費	550,000	545,294	4,706
地区研修活動費	600,000	600,000	0
活動費	95,000	79,780	15,220
地区活動費	210,000	210,000	0
広報費	600,000	594,534	5,466
事業事務費	35,000	22,769	12,231
運営費	4,996,000	4,891,086	104,914
人件費	3,406,000	3,383,100	22,900
旅費	750,000	715,200	34,800
運営事務費	85,000	82,073	2,927
借用料	230,000	243,396	△13,396
通信運搬費	200,000	156,721	43,279
渉外費	30,000	20,336	9,664
社会保険料	275,000	286,260	△11,260
雑費	20,000	4,000	16,000
負担金	320,000	330,343	△10,343
租税公課等	100,000	144,000	△44,000
備品費	0	0	0
退職積立金	100,000	100,000	0
日韓交流事業	80,000	79,555	445
予備費	115,000	155,809	△40,809
合計	8,026,000	7,977,927	48,073

平成26年度 収支予算書

収入の部 (単位:円)			
科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)
負担金	4,796,600	4,841,000	△44,400
補助金	1,216,000	1,184,906	31,094
前年度繰越金	52,357	0	52,357
繰入金	2,000,000	2,000,000	0
雑収入	143	94	49
合計	8,065,100	8,026,000	39,100
支出の部 (単位:円)			
科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)
会議費	232,000	225,000	7,000
事業費	2,078,000	2,090,000	△12,000
研修費	530,000	550,000	△20,000
地区研修活動費	810,000	810,000	0
活動費	80,000	95,000	△15,000
広報費	633,000	600,000	33,000
事業事務費	25,000	35,000	△10,000
運営費	5,081,000	4,996,000	85,000
人件費	3,406,000	3,406,000	0
旅費	860,000	750,000	110,000
運営事務費	85,000	85,000	0
借用料	160,000	230,000	△70,000
通信運搬費	180,000	200,000	△20,000
渉外費	50,000	30,000	20,000
社会保険料	320,000	275,000	45,000
雑費	20,000	20,000	0
負担金	328,000	320,000	8,000
租税公課等	81,000	100,000	△19,000
備品費	0	0	0
退職積立金	100,000	100,000	0
日韓交流事業	80,000	80,000	0
予備費	85,100	115,000	△29,900
合計	8,065,100	8,026,000	39,100

第64回全国高P連大会 福井大会報告

平成26年8月21日(木)～23日(土)、福井県のサンドーム福井を主会場に、「教育と幸福(こころ)」～未来に引き継ぐ～知と恵みのテーマのもと全国から約二万名(鳥取85名)が参加して開催されました。

■大会一日目

開会式に来賓として出席した下村博文文科相は、昨年の基調講演後の経過報告をするともに「幸福」の視点は大切で、日本の高校生の自己肯定感をたかめるために、保護者の協力を求めたいと挨拶がありました。

基調講演は、演題「今求められる考福脳～脳科学者からの提案～」理学博士で脳科学者の茂木健一郎氏の講演がありました。

講演内容は脳は一生学び続けることができる。新しいことに挑戦し続けることで、若々しい脳を保つことができる。「幸福とは何か」ということについて、脳科学では答えが見え始めている。幸福が一貫して伝えているものは、幸せにこだわっている人はなれないということ。また、失敗したことにこだわりそのこと

にフォーカシングイリュージョン(ある特定の条件に焦点を当てて幻想する)をしているとなれない。失敗だと思えることがダメ。個性は他人に出合わないかわからない。それは旅に出て、他人に合い、欠点も含めた自分の個性を受け入れることに幸福のカギがある。



午後の分科会では、午後二時より四時半まで、設定されたテーマにそった発表と活発な討議が行われました。

■大会一日目

高校生のアトラクションの後、福井県恐竜博物館特別館長東洋一氏による「福井の恐竜～アジア、そして世界へ～」の記念講演がありました。

閉会式では、次年度開催地の岩手県に大会旗が渡り大会を終えました。

■PTA広報紙展示



第56回中国・四国地区高P連大会 高知大会報告

平成26年7月11日(金)高知県民文化ホールにおいて、「緑の山から青い海へ」～夢をつないで未来へ～を大会テーマに、中国・四国地区高P連会員約1,800名の参加で盛大に開催されました。鳥取県からは107名の参加がありました。

午前の講演は、「私と野球」と題し、名古屋商科大学硬式野球部監督(元PL学園野球部監督)中村順司氏による講演がありました。

した。監督は、卒業後も野球人としてレベルアップしていく指導を主眼とし多くのプロ選手を輩出、その豊富な経験を活かした話を聞くことができました。

午後の研究協議では三校の発表があり、その中の山口県立防府商工高等学校は「生徒指導とPTA」特色ある学校づくりを通しての生徒指導」で、「私たちの街は、私たち自身が創造していく」という理念の元実践活動を続けている。「天神まちかどフェスタ」では、学校の文化祭を地元の商店街で行う事からはじめ地域活性化の一翼を担っている。また、生徒が観光協会と協働し伝統の「笑い講」を庶民文化として定着させ「世界お笑い協会」設立、世界でただ一つの取組を行っている。「幸いです。便



利です。助かります。うれしく思います。ありがたいです。」の意味を持つ方言「幸せます」の言葉に「幸せ増す」の意味を付け加え、商工会議所と協働し地域ブランドを開発、幸せます認定商品は60を超える。その中には生徒たちが事業所と協働して開発した商品もある。生徒指導とは、「地域で子どもたちと接点を持ち、大人の生き方を示し続けること」という報告があり参加者の関心呼びました。

(文責 寺谷)

平成27年度各種研究大会等の予定

- 鳥取県高等学校PTA連合会総会
6月 中部地区
- 中国・四国地区高等学校PTA連合会大会
7月10日(金)岡山市民会館(岡山市)
- 全国高等学校PTA連合会大会
8月20日(木)・21日(金)
岩手産業文化センター(滝沢市他)
- 鳥取県高等学校PTA指導者研究大会
11月 中部地区